

平成21年9月14日

顧問先各位

戸田会計事務所
所長 戸田裕陽

経営ワンポイント

切羽詰れば知恵がでる(自分を追い込んだヤツが最後は勝つ)

若い頃読んだ某大学教授の著書の中に、『切羽詰れば知恵がでる』という言葉がありました。その時私は、何て的を得た言葉だろうと感激したものです。何故なら、実は私も同じことを感じていたからです。逆説すると切羽詰らないと知恵は出ませんよ、いつもわが身を安全地帯に置いている人には新しいアイデアを発見することはできませんよ、という事です。これをビジネスに置き換えると、自分を追い込んだ人は成功します。その逆にいつも愚痴や不満を嘆くばかりで、チャレンジしない人にはチャンスは訪れませんよという事です。私も長い人生歩いてきて、まったくその通りだと思います。

皆さん学生時代を思い出して下さい。成績の良い優秀な生徒が、皆さんの周囲にいたはずですが、『アイツは何て頭がいいんだろう。それに比べて俺は…』とよく羨ましく思ったことはありませんでしたか。そして全員が学校を卒業し社会に入るわけですが、その後の秀才たちがどうなったかご存知ですね。優秀な方も大勢いますが、普通の方も結構多いと思います。学校を卒業してから10年20年が過ぎ、久しぶりに同窓会に出席して名刺交換したとき、学生時代は成績もよくなかった友人が、会社社長だったりして目を見張った覚えがあると思います。社長とはいっても、会社の業績が良いのか悪いのか分かりませんが…。とりあえず代表取締役です。傾向として会社経営しているのは、秀才タイプでなくごく普通の学生が多いような気がします。この分水嶺がどこにあるかということ、思い切って飛び込んでいく勇氣にあると思うんです。飛び込んでしまったため、浮上するためにアレコレ模索し、次第に知恵やノウハウを身につけていったのです。まさしく『切羽詰れば知恵が出る』を地でいっていると思います。

なぜ『切羽詰れば知恵が出る』のでしょうか。この解明は簡単です。

東京大学のある研究室が、人間の脳の生涯使用率を調べたそうです。それによりますと、インシュタイン博士クラスで、生れながらに持っている能力の7%しか使われていないそうです。なんと93%は使用されずに墓場行きです。私のような凡人では、おそらく1%~2%位でしょうか。もったいない話です。ところが人間ピンチに立った時、この未使用分の潜在能力が表に出てきます。つまり顕在化するという事です。この説によりますと、私達は生れながらにしてすばらしい能力を備えているのであり、機会がある時それを引き出しているんだということなのです。

ですから人間は、生れるとき既にすばらしい能力を身につけているのであり、何も新しい能力を新たにつける必要はないのです。ただその潜在能力を上手に引き出せばよいのです。引き出したままの能力は荒削りですから、研磨したり加工したりしてその精度を高めていきます。そしてその能力を引き出すコツは、『切羽詰る』ことなんです。どなたもご存知でしょうが、昔力道山というプロレスラーがいました。当時彼が試合をすると銭湯がガラガラになる程でしたが、ある時『ヘイスタック・カルホーン』という巨漢レスラーと試合をしたことがあります。私もそのテレビを観ながら熱狂していましたが、力道山が負けるかなと思った瞬間、自分の何倍も体重のある相手レスラーをリング外に放り投げたのです。試合の勝ち負けとは別に、力道山のその時の馬鹿力に、テレビを観ていた人々は驚きました。その時彼は、切羽詰ったのでしょう。平常時にはとても出せないようなもの凄いパワーを発揮したのです。このように仕事も人生も、わが身を危険な状態に置いた人が勝ちます。要するにチャレンジする人は伸びていく、ということなのです。